

大阪府立たまがわ高等支援学校 令和2年度 第3回 学校運営協議会の概要

- [1] 日時 令和3年3月16日(火) 午前10時00分～11時30分
- [2] 場所 大阪府立たまがわ高等支援学校
- [3] 出席 協議会委員5名 事務局員7名
- [4] 内容
 - 1 開会の挨拶
 - 2 事務局から説明
 - (1) 令和2年度学校経営計画及び学校評価について
 - (2) 令和3年度学校経営計画(案)について
 - (3) 令和2年度学校教育自己診断アンケート分析について
 - (4) 進路状況等について
 - (5) その他
 - 3 協議
 - 4 閉会の挨拶
 - 5 諸連絡

議事録(抄録)

≪議事録中、●は協議会委員です≫

1 開会の挨拶 (校長)

今日は今年1年間の学校評価と来年度の学校経営計画をお知らせします。

入学者選抜では、開校以来初めて定員割れという事態になった。おもにはコロナ禍の状況で本校のいいところを中学校3年生に広く知ってもらう機会が少なかった。また、中河内、南河内が本校の通学地域だが、そこが大阪で一番子供の減少率が高い。昨年、一昨年から60人台の受験人数だった。遠方からも毎年受験していたが、それも今年はなかった。長い時間の通学を躊躇されたのか、と考える。今後回復するのは難しいかもしれない。3月22日に補充選抜をおこなう。10人空いている。それによってクラス数、教職員の人数も確定する。

2 事務局から説明

(1) 令和2年度学校経営計画及び学校評価について (校長)

1 教育活動の外部への発信と関係機関との連携・交流

コロナ禍で対外的なことの指標が苦しい結果になった。校長ブログはほとんど更新できなかった。後で変更になると書き換えられないので、できる限り正確な状況をお知らせするためにブログは残さないようにした。中学校の体験授業も中止。各機関との予定もなくなっ

たが、学校再開後にできたものもあった。部活動は大会の中止もあったが、校内の活動には意欲的だった。高等支援学校教員連絡会はいろいろな情報を共有するなど役に立った。今後も続けたい。月一マルシェはなんとか実施できた。校外へ出ての交流はほぼ中止。たまフェスは中止になったが創立記念祭を実施した。日ごろの成果を出せたのでは。

2 進路指導体制の確立・社会的自立をみすえた教育活動の充実

新規実習受け入れ事業所は40社になったが、コロナ禍の厳しい中で達成できたのは成果としてはよかった。一方離職率は高かった。短焦点プロジェクターの整備が進んだ。オンライン授業用のWebカメラも準備できた。キャリア教育についてはなかなか予定通りのスケジュール感ではできなかったが、ほぼ実施できた。T-ノートにはキャリアパスポートの視点を入れた枠組みを作り、今後活用していく。生徒会では挨拶運動その他、できることが少なかったがそれ以外のことも地道に積み重ねた。部活動は全国大会への出場権は獲得していたが中止になった。

3 進取の機運に富んだ行内体制の確立

研修について、外部講師によるものは密を避けられないため、実施できなかった。教員の相互授業見学については授業回数が少なくなったこともありうまくいかなかった。人材育成についての校内研修はなんとか実施できた。来年度の学校経営推進費について、校内でプレゼンをすることによりいろいろな人に学校経営について考えてもらった。働き方改革は、集計方法が変わったので去年の指標と考え合わせるの難しいが、時間外勤務が増えた人がある。コロナ禍などにより業務の負担が増えた。

質問

●委員 : 今更ですが、進取の機運とはどういう意味か。

校長 : イノベーション委員会など、「先取りする」という意味でとらえている。

(2) 令和3年度学校経営計画(案)について (校長)

めざす学校像はほとんど変えていない。中期目標を少し変更している。外部への発信よりも校外への取り組みをしていきたい。目標は4つから3つへ再編した。

中期目標

1 積極的な郊外への取組や地域、関係機関との連携・交流の充実

各関係機関との現在の関係をさらに深めるとともに、新たな分野や新たな連携先を探す。

2 進路指導体制の確立及び社会的自立を見すえた教育活動の充実

進路指導については、生徒一人ひとりのニーズに対応するとともに、新たな職域開拓によ

るマッチングにシフトしたい。授業については今後の時代の流れに取り残されないようにオンライン授業を活用する。大阪府はギガスクール構想を前倒しでおこない、一人一台端末を実現する。令和3年度中には本校の生徒についても一人一台になると聞いている。それに向けた授業づくりをしていく。

- 3 今後の社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ取組みの推進
校務の効率化、業務負担の公平性を保つ。個別の取組みではなく、システムを変える。

取組内容

1 教育活動の外部への発信と関係機関との連携・交流

SSW について。生徒本人は頑張ろうとしているが、ご家庭や養育される環境がしんどい家庭が増えている。本人のやる気だけではどうしようもない。お弁当がない、きょうだいの世話をする、送り出しをしてもらえず遅刻する、など。SSW を活用して福祉関係機関等と連携をとっていく。高等支援学校では一般の知的障がい支援学校とはちがう取組みがあるので、連絡会を活用する。たまがわランドや定期的な販売、新たな地域交流など、コロナ禍が収まるのが前提でおこなう。この地域にたまがわ高等支援学校がある、ということ、周りの皆さん方に知っていただく機会を持ちたい。また、中学校等の教員にたまがわを知ってもらい、中学3年生に本校を知ってもらうために、ホームページ上で本校のことがわかるようなコンテンツを作成したい。

2 進路指導体制の確立・生徒の社会的自立をみすえた教育活動の充実

就労について。今年も新規受け入れ事業所は50社が目標。離職者は昨年度5%が目標だったが現実的ではないので10%以内にした。学力の育成についてはテーマを持って実施する。ICT機器を活用するため、教員向けの研修をおこなう。G-Suiteを大阪府として導入するので、子どもたちが家庭にいてもやりとりができるように。授業の中でできる環境を作っていく。キャリアプランニングマトリックスは今年度完成したので、使いながらすすめていきたい。保護者のみなさんも見る機会があると思う。T-ノートの改善、コグトレも継続する。生徒会活動については、生徒会として自主独立で自分たちが主役になってやってほしい。校外活動を含めた取組みも実施したい。部活動もさらに活性化していく。

3 進取の機運に富んだ校内体制の確立

人権にかかわる内容で外部講師を招聘して研修をする。来年度、取れるかどうかかわからないが学校経営推進費に応募する。普通教室に短焦点プロジェクターを置き、授業で使えるようにしたい。取れなくてもすこしずつ設置していきたい。働き方改革については、毎週水曜日を定時退庁日として19時までには退勤することを目標にしてきたが、かなり定着した。さらにすすめて、毎月20日も加えたい。一人当たりの時間外勤務が支援学校全体より下回る

ようにしたい。

質問

●委員 : 新しい分野や事業先との連携で、今不足している職域は？

校長 : 具体的にはいろいろあるが、引きこもりや不登校の生徒の進路先について、テレワークが導入されているので家にいながらオンラインでできる仕事などを開拓できないか。できる仕事があれば外に出なくても社会とつながることができるのでは。

●委員 : 中学生の体験授業や中学校の先生、中学1、2年生の見学は実施するのか。見学しなければ子どものモチベーションはあがらない。たまがわは厳しい、と言われるが見てみないとわからない。

校長 : 今年はコロナ禍で実施できなかったが、例年はやっている。たまがわを見学したら、生徒たちは自己肯定感を上げていい顔をして活動している。その様子を実際に見てもらわないとわからない。ぜひ体験授業やオープンスクールなどで来てほしい。

●委員 : ICT 機器の一人一台端末で身につけることには大きな可能性があると思う。キーボードを打つことは苦手という生徒もいるので、早い時期から授業などで工夫してほしい。

校長 : 機械は入るが、有効に活用する授業をするための教員のスキルについては研修をしていかなければならない。ただ、教員のスキルが上がるのを待ってられないので同時進行でとにかく使ってみる。家庭によって差ができないようにすることが課題。

●委員 : 業務負担にならないか心配。先生方には元気でいてもらいたい。困難もあるかもしれないが、一人でも救われる生徒がいると思う。すぐに結果は出ないかもしれないが、進めてほしい。

校長 : 研修をたくさん受けて自分で勉強する時間も取ってほしいが、時間外勤務との兼ね合いもある。どう両立するかを今後考えていかなければいけない。

●委員 : 大阪府が高校生へ一人一台端末としているが、パソコンかタブレットか？

校長 : 高校はクロームブックという Google が入っているパソコン。支援学校は基本的には iPad。

●委員 : Wi-Fi 環境は？

校長 : 機械はまだ入っていないが今年度中に工事が終わる。

●委員 : 機器を使うことは学習の質を高める。私学ではプロジェクター利用、タブレット導入、その時にどういう内容の授業をするか、チームを作って実際の授業を提示して修正していった。

校長 : どう使うか、が大切。タブレットを使うと理解度が違う生徒の進度に合わせてできるので個別性を助長する。ただし教員は今まで一斉授業だったので、根本的に見直して違う視点で授業を作るのがたいへん。でも例えば英語の授業では G-suite を使って実際にやっ

ている。各教科の先生が学んでできるようになる時間をどう保障するのか。考えていかなければいけない。

●委員 : 共生推進教室のカリキュラムは？

校長 : 共生だけの授業をしている。今後はもう少し本校生との交流ができるように。

委員全員：令和3年度学校経営計画は承認。

(3) 令和2年度学校教育自己診断アンケート分析について (事務局員)

アンケートは12月初めに実施。今年度はコロナ禍の影響が大きく、生徒では授業や行事、外部との交流などで前年度を下回る回答が多かった。一方、保護者からは授業内容や行事を工夫しておこなっていることについて、共感していただいている内容が提案シートへの記入にも見られた。また、保護者から学校ホームページの更新をしてほしい、行事予定の変更を早く知らせてほしい、などの意見もあったので、改善していきたい。

(4) 進路状況等について (事務局員)

今年度の職場実習について。3年生は1回目を7月、2回目を9月に実施した。例年通り1回目の結果が良ければ2回目につながる。今年2回目につながったのは39名で、そのうち9月を終えて実際の就労には32名つながった。やはり1回目が大事。10月以降は随時実習をおこなったが、今年度はコロナ禍の影響で年度後半に実習先が減っていった。例年は企業から採用予定の連絡があったり関係機関からの情報があったりもするが、今年度はほとんどなかった。年末には実習先がなくなったため、ハローワークがオープンにしている求人票を見て直接企業へ電話をかけて実習のお願いをして、なんとか3年生全員複数回実習を設定できた。ほとんどの生徒が就労につながった。

2年生は9月と11月に2回の実習をおこなった。本来は春と秋でおこなうが、時期をずらした関係で3か月の間に2回おこなうことになった。1回目の振り返りや2回目の準備が十分できないまま実習をおこなったが、結果的にはこの時期しかなかった。2回実施できてよかった。

1年生は例年11月におこなうが、今年度の状況では2年生と合わせて128人分の実習先を確保することが難しかったため、1月に延期した。しかし、緊急事態宣言により3月に延期、その後緊急事態宣言が延長されたため、実習は中止となった。一年間かけて職場実習の学習を進めていたので、2年生に進級して6月の実習では頑張ってくれると期待している。

質問

●委員 : それぞれの実習の期間は？

事務局員：3年生と2年生は2週間、1年生は1週間。

●委員：実習場所の範囲は？

事務局員：通勤時間が1時間以内になるようにしている。自宅から近いところで。現在、来年度の6月実習に向けて電話かけをしているが、会社の予定が決まっていないところがある。

●委員：厳しいが努力してもらおうほかない。1社でも多く。

(5) その他

特になし

3 協議 (司会を●委員に)

司会：離職率11%の理由は。

事務局員：早い者は3か月で離職した。実習のレベルでは持ちこたえられたが、実際の仕事になるとスピード感についていけない、きつめに注意されて落ち込む。教員や支援センターからアドバイスや励ましをしていたが、やめてしまった。また他の例では、在学中から正義感が強く、職場のパートの方が悪口を言うことが許せない。いろいろ悩んだが退職した。学生の生活と社会人の生活の違いについていくのがしんどかった。

司会：まあいいか、ができない。悪いことは悪いとってしまう。

校長：SSTの一番難しいところ。まあまあ、というのを教えるのは難しい。

●委員：そこが受け入れられると生きていきやすいと思うが、まだまだ10代の子どもにはわからないこともある。ただ、不思議と3年4年と経験を積んでいくとそれなりにできるようになってくる。

校長：長い目で見てほしい。一度仕事をやめてしまうと次に条件が良くなることはあまりない。もちろん成長はしていくのでそれに合わせてうまく就職できるとよいが。

司会：離職したあとはどうしているのか。

事務局員：就業・生活支援センターにつないでいる。

校長：3年生は全員必ずつないでいる。学校に相談に来る生徒もいるが、教員が支援するのは難しい。就・やジョブコーチなどのサポートを使ったほうが短期間で再就職できる。

司会：離職の期間が長期ではなく短期で再就職できれば。

事務局員：例年は卒業後4、5月に就・と教員が事業所を訪問する。今年はコロナ禍で行けなかったため、6月から少しずつ訪問したが、全員終えたのは9月になった。職場でトラブルになると修正するのは難しいため、まだ調子が良いときにまず会うことが大切。来年度は4月からおこないたい。

司会　：最後に委員のみなさんから一言ずつお願いします。

●委員　：生徒たちが先生方や地域の方に見守っていただいていることがわかった。将来のこと、就職した後のことも考えてもらっていてありがたい。また、感染症対策をおこないながらだったが修学旅行にタイミングよく行けてよかった。3年生も卒業前にバックツアーに行けてよかった。

●委員　：一年間いろいろ勉強させていただけた。来年度の学校経営計画の中で、新たな職域拡大ということだが、大手の特例子会社でも親会社からの受注が減ったりテレワークがすすんで社員が会社に出社しなかったり、障がい者が請け負っていた業務が縮小したと聞いている。民間としても新たな職域を開拓しないと雇用ができない。職域を広げる努力をしている。また、働き方改革については企業も取り組んでいる。勤務時間、残業、時間を縮小する、短縮するところに目が行きがちだが、やりがい、達成感を味わう、満足度などが置き去りにされている。仕事をする限りは満足度ややりがいも合わせて改善していきたい。

●委員　：自治会は高齢化が進み高齢者が楽しむことが課題になっている。一人暮らしの高齢者は閉じこもりがち。以前小学校で子どもが作った野菜を高齢者に渡す行事があり、とても喜ばれた。この近くにも老人ホームがたくさんあるので、例えば支援学校でコーヒーを飲むことによって交流ができるのでは。地域に提供することによって支援学校の宣伝にもなるのでは。

●委員　：学校教育自己診断アンケートにもあるが、防災に関しての取り組みについて。災害時には学校以外の機関との情報共有も有効では。また、生徒には防災に関して再度危機管理意識を持たせてほしい。生徒たちの若い力は、支援される側ではなく支援する側ぐらいの意識が十分できるのでは。そして、災害のときに職員室を守ることも大切だと聞いた。司令塔が最重要なので、いろいろなものが落ちてこないか、先生方の身を守るということも大切。

校長　：職員室の安全も確認しておきたい。

司会　：いろいろなご意見をいただきました。地域とのつながりは、人間関係が狭い生徒なので大事な要素。コロナ禍で、すぐに、とはいかないが、就労にしても人間関係がベース。いろいろな人と交流することが大切。防災についてはいざというときにどうするか、危機管理意識を在校中に学習してほしい。このコロナ禍をどう生かすか、も必要。教員の働き方は過酷だが、その中でどのように効果的な時間を設けるか、工夫が必要。ゆとりの中にいいアイデアが、子供への声掛けが、ある。教員がしかめっ面をして教壇に立つことがないように。校長先生には教員の心をつかんで一丸となって取り組んでいただきたい。

4 閉会の挨拶　（校長）

貴重なご意見をありがとうございます。教職員だけでなく、保護者、委員、地域の方に支

えていただきながら子どもたちを育てたい。今後も忌憚のないご意見を申し上げます。1年間ありがとうございました。

委員のみなさまには来年度も継続でお願いしたい → みなさま承諾。

5 諸連絡（司会）

特になし

以上